

## 第 11 回ジャパン・レジリエンス・アワード 2025

### 『クルマ de 給電』が「優秀賞」を受賞



トヨタホーム株式会社（名古屋市東区泉 1 丁目 23-22、代表取締役 西村祐）は、一般社団法人レジリエンスジャパン推進協議会主催の「ジャパン・レジリエンス・アワード（強靱化大賞）2025」において、『クルマ de 給電』が「優秀賞」を受賞しました。

「クルマ de 給電」は、災害時（停電時）に国内で普及率の高いハイブリッド車をはじめとする電動車から住宅に安全かつ簡単に電力供給を行える業界初の非常時給電システムです。あらかじめ設定された回路（冷蔵庫、照明、コンセント等）に電力を供給することで、非常時にも約 5 日間※、日常に近い在宅避難生活を可能にし、居住者の安心・安全を支える仕組みとして高く評価されました。

※車輛：プリウス（2.0L）、消費電力：400Wh の場合

本システムは、2020 年度の販売開始以降、導入台数は累計 10,000 台を超え、愛知県みよし市の大型分譲地「ミヨシミライト」では約 9 割の住戸に導入され、街全体で災害時の電力確保を実現。実際の停電時にも在宅避難を可能にし、多くのお客様から高い評価をいただいています。

今後も当社は、「災害にいちばん強い家を。」をコンセプトに、災害の発生時から発生後まで、より安心して住み続けられる住まいを提供します。

## ■クルマ de 給電の特長

### <レジリエンス性>

一般的なV2Hスタンドが主にBEV・PHEVを対象とするのに対し、「クルマ de 給電」は国内で普及率の高いハイブリッド車などからも給電可能な点が最大の特長です。有事の際に“誰でも迷わず使える”ことを重視し、操作はシンプルで直感的な設計としました。

### <技術性・革新性>

東日本大震災で車両が電源として活用された事例をヒントに、クルマ自体を住まいの電源とする仕組みを検討。法整備や安全基準といった課題を乗り越え、車両側の技術開発と並行してシステムを実現しました。日常に欠かせないクルマを、非常時には電力供給源として活用できる先進的な仕組みです。

### <波及性・持続性>

V2H や家庭用蓄電池に比べて構成がシンプルでコストも抑えられるため、新築住宅はもちろん、リフォームや商業施設などへの後付けも容易で、幅広いシーンで導入が可能です。また、電源となる電動車の普及はカーボンニュートラル推進とともに今後も拡大が見込まれ、継続的な普及・活用が期待されます。

## ■ジャパン・レジリエンス・アワードについて



「ジャパン・レジリエンス・アワード（強靱化大賞）」は、一般社団法人レジリエンスジャパン推進協議会（所在地：東京都千代田区、会長：広瀬 道明）により、次世代に向けたレジリエンス社会を構築するために全国各地で展開されている“強靱化（レジリエンス）”に関する先進的な活動を発掘・評価し、表彰する制度です。

以上

未来をまちづくり **PLT**  
Prime Life Technologies

プライムライフテクノロジーズグループは、パナソニックホームズ、トヨタホーム、ミサワホーム、パナソニック建設エンジニアリング、松村組を事業会社として「未来をまちづくりPLT」をコーポレートメッセージに掲げ、社会課題と顧客課題の解決に取り組みます。

※プライムライフテクノロジーズ（株）は、2020年1月にパナソニックとトヨタ自動車が発立し、三井物産を加えた3社を株主とする会社です。